

病院だより 9月号 昭和大学横浜市北部病院

2023年9月1日 発行

通算 第183号

巻頭言 着任のご挨拶

本年4月1日より事務部長として着任いたしました小川秀樹と申します。私は、入職以来30年以上にわたり病院事務業務に関わってまいりましたが、横浜市北部病院では初めての勤務になります。

横浜市北部病院は2001年4月1日横浜市医療政策の1つである医療圏配置計画に基づき、急性期ならびに地域医療を担う中核病院として、ここ都筑区に昭和大学で8番目の附属病院として新規開院しました。開院当時より、内科と外科が一緒となるセンター方式の診療システムの導入や現在では当たり前となっている電子カルテを全国の大学病院に先駆けて導入するなど、21世紀の医療施設として画期的で最先端の病院でした。当時の私は、他の附属病院で勤務しておりましたが、その近代的な設備とシステムに驚き、期待に胸弾ませたことを思い出します。

その後、地域医師会ならびに患者さんと一緒に歩み続け、本年23年目を迎えました。20年以上を経過し、施設設備の整備・改修ならびに医療機器の更新を計画的に進めていくことで病院機能の向上に努め、引き続き横浜北部地域の中核病院としての役割を担っていきます。

近年は、新型コロナウイルス感染症の対応に追われましたが、本年5月8日より新型コロナウイルス感染症が5類感染症に変更されました。全国的に感染対策については様変わりしましたが、重症化リスクの高い方が多くいる医療機関では引き続き十分な感染対策が求められています。まだ感染者数は減少していない状況ですが、しっかりとした感染対策を実施したうえで、手術などの通常医療の充実を図るなど、ポストコロナの診療体制へシフトし、感染医療と通常医療を両立させていくことが重要であると考えます。また、来年2024年4月に医療分野では大きな転換期を迎えます。医師の働き方改革の開始（時間外労働の上限規制など）、第8次医療計画の策定（地域における医療提供体制の計画見直し）、トリプル改定（診療報酬・介護報酬・障害福祉サービス等報酬の同時改定）といった制度改革に対応し、地域医療全体を視野に入れて適切な役割分担の下で、必要な医療提供を行うことが重要となります。

以上のことから、当院の医療機能をソフト・ハードの両面からさらに向上させ、地域住民の皆様へ愛され、地域医師会の医療機関に信頼される病院として発展し、地域医療支援病院として地域医療に貢献していくことが肝要であると考えます。

そのために、昭和大学の建学の精神である「至誠一貫」（常に相手の立場に立ってまごころを尽くす）を体現し、横浜市北部病院の更なる発展を実現していきたいと思ひます。どうぞよろしくお願い申し上げます。



＜事務部長＞
小川 秀樹

- P1. 【巻頭言】—着任のご挨拶—
- P2～3. 【医学講座コーナー】がんゲノム医療
- P4. 【お知らせ】NICU（新生児集中治療室）病棟改修に伴う一時閉鎖について
がん患者サロン「きぼう」・秋分の日病院食について
- P5. 患者さんからのご意見・ご要望
- P6. 【告知】秋期市民公開講座について
【編集後記】



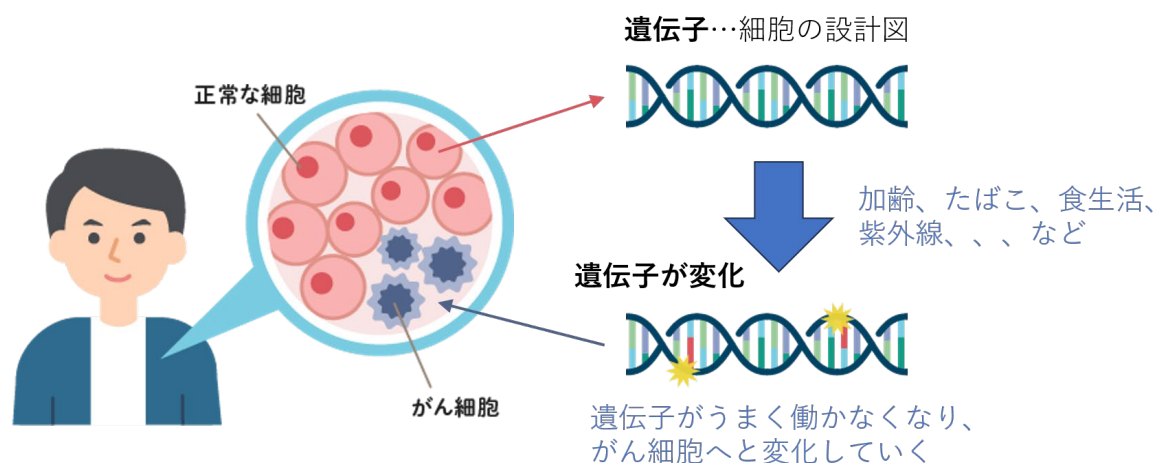
【医学講座コーナー】 がんゲノム医療

(臨床遺伝・ゲノム医療センター 助教 富永牧子)

がんゲノム医療って何？

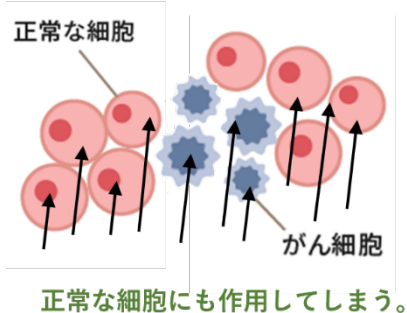
がんの標準治療は、体の「どこ」に「どんな細胞」のがんができて、手術療法、放射線療法、化学療法などを組み合わせて行われています。現時点で最良と考えられている治療が選択されますが、それでも、うまく効かなかったり、後からがんが再発したりすることがあります。

そこで、**標準治療後の治療選択肢の可能性を探る**ために、がん細胞の遺伝子情報を調べて、がんの原因となっている遺伝子の変化を知ること、それぞれの患者さんのがんの性質に合わせた治療法を選択していくのが、**がんゲノム医療**です。



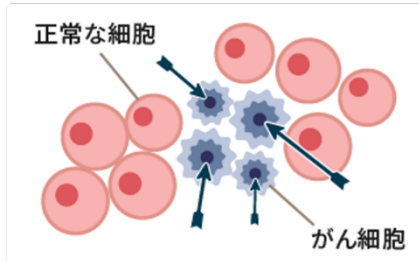
遺伝子が変わることによりできる、通常とは異なる働きたんぱく質を標的にして、がん細胞を攻撃する薬のことを、**分子標的薬**といいます。当然、その遺伝子の変化がなければ分子標的薬は効果を発揮しないので、分子標的薬を使用するためには、遺伝子情報を調べるのが大切です。

従来の抗がん剤



正常な細胞にも作用してしまう。

分子標的薬



特定の遺伝子の変化を標的とし、効率よくがん細胞を攻撃する。

特定の分子標的薬の効果を調べるための遺伝子検査は10年ほど前から普及していましたが、遺伝子解析技術の進歩により、遺伝子を1つずつ調べるのではなく、たくさんの遺伝子の変化を一気に調べることができるようになりました。それが「**がん遺伝子プロファイリング検査 (がん遺伝子パネル検査)**」です。

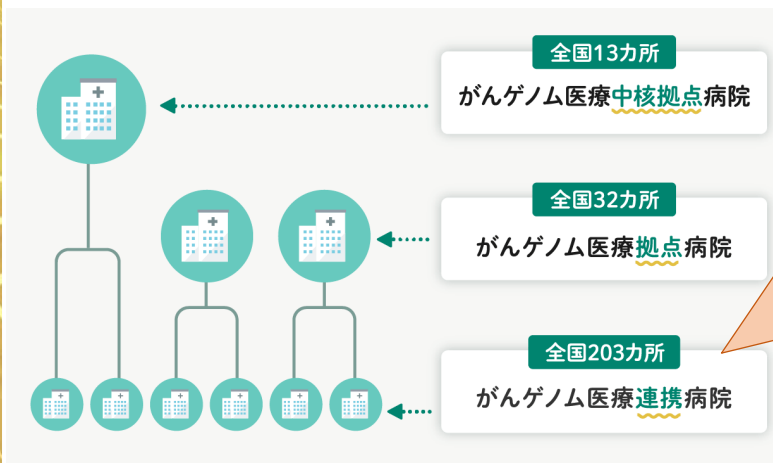
この検査により新しい治療が始められる方は、現在のところ、10～15%程度(国内実績)と多くはありません。遺伝子の変化に対応した薬が見つかって、試験中のお薬であったり、保険で認められていないお薬であったりすることもあります。ですが、がんの性質をより理解し、患者さんに合わせた治療を検討するきっかけになる検査です。

【医学講座コーナー】 がんゲノム医療

(臨床遺伝・ゲノム医療センター 助教 富永牧子)

どうやって検査するの？

2019 年より「がん遺伝子プロファイリング検査」が保険診療として行われるようになり、厚生労働省により指定された医療機関で受けることができます。



当院は、**がんゲノム医療連携病院**として、拠点病院である神奈川県立がんセンターと連携しています。

毎週、オンラインで検討会議（エキスパートパネル）を行っています。

現段階では、固形がんの患者さんが対象で、血液のがんなどの患者さんでは検査することができません。これまでに手術などで摘出したがん組織、あるいは、この検査のために採取したがん組織を使用して検査を行います。検査に適したがん組織がない場合、採血で検査できることもあります。検査をするタイミングなどは担当医が判断しますので、**まずは担当医に相談してください。**

遺伝子の変化は“遺伝”するの？

がん細胞の中の遺伝子変化は、もともと持っていた正常細胞の遺伝子が変わったものなので、基本的にはご家族と共有することはありません。が、この検査をすることで、「もともと体質として持っていた遺伝子の変化」が見えてきて、「がんになりやすい体質」が判明することがあります。この「がんになりやすい体質」のことを「**遺伝性腫瘍**」と言い、この体質は、親子、きょうだいなどで共有することもあります。

え？怖いな…って思いましたか？

そんな時のために「**遺伝カウンセリング**」があります。当院の臨床遺伝・ゲノム医療センターは、がん診療の専門家と臨床遺伝の専門家が、チームで対応しています。

遺伝カウンセリングは、**がん患者さんだけでなく、「遺伝」のことが気になっている方は、誰でも受けることができます。**

がんの性質、そして、ご自身の体質をよく知り、患者さんにとって、ご家族にとって、何が最適な方法なのかを考えるお手伝いをします！

お気軽にお声がけください。



リーフレットも是非お手に取ってくださいね

【お知らせ】NICU 病棟改修に伴う一時閉鎖について

2023 年 9 月 1 日から 2024 年 3 月 31 日にかけて、感染症児などの対応を可能にする陰圧室の完備など、より安全でより多くの新生児を受け入れることを目的に、当院の NICU（新生児集中治療室）病棟を改修することになりました。

これに伴い、該当期間の NICU 病棟への入院は、転院などを含めて制限させていただくことがございます。

なお、上記該当期間におきましても新生児科医師は常駐しております。NICU 病棟に入院ができない場合の緊急対応、転院などのコーディネートはいたしますので、ご安心ください。何卒ご理解とご協力のほど、よろしくお願いいたします。



【お知らせ】9 月度 がん患者サロン「きぼう」



開催日時：9 月 21 日（木）14：00～15：00（予定）

開催方法：中央棟 9 階会議室（オンライン参加可能）

ミニレクチャー：「がん療養と緩和ケア・気持ちのつらさ」

（申込方法については、左記 QR コード

または 病院ホームページをご覧ください。）

お問い合わせ：中央棟 1 階 100 番 総合サポートセンター・

がん相談支援センター 045-949-7000（代）

【お知らせ】秋分の日 of 病院食について

厳しい残暑が続いておりますが、朝、晩にはかすかな秋の気配を感じる季節となりました。9 月 23 日は秋分の日です。当院では、秋の食材を使用した季節献立のお食事を提供する予定です。

主食となる栗御飯の栗は、ビタミン C、食物繊維が豊富な食材です。加熱に弱い性質のビタミン C ですが、栗に含まれるビタミン C はデンプン質に保護されていることから加熱をしてもビタミン C が壊れにくいのが特徴です。また食物繊維は、腸内にある老廃物の排出をサポートする効果があります。

主菜には、山道風景が名前の由来である山路蒸しを秋仕立てに。3 種のきのこを使用したきのこソテー、デザートには小豆豊かなおはぎをご用意させていただきます。

お食事を通じて秋の訪れを感じていただければ幸いです。季節の変わり目、お身体に気を付けてお過ごし下さい。



※写真は昨年度のものです。

患者さんからのご意見・ご要望

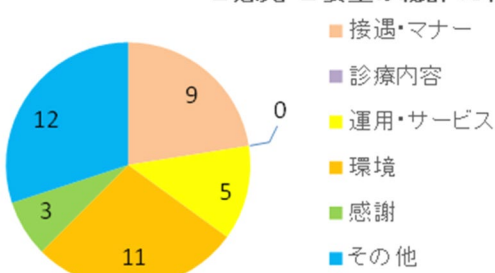
日々患者さんより、ご意見箱にいただきましたご意見・ご要望に関しましては、病院長及び関連する部署の責任者に報告し、改善に努めております。今までのご意見の中で多くいただいたものや最近のご意見・ご要望を中心に、改善策を掲載させていただきました。

掲載されていない内容についても別途対応しております。

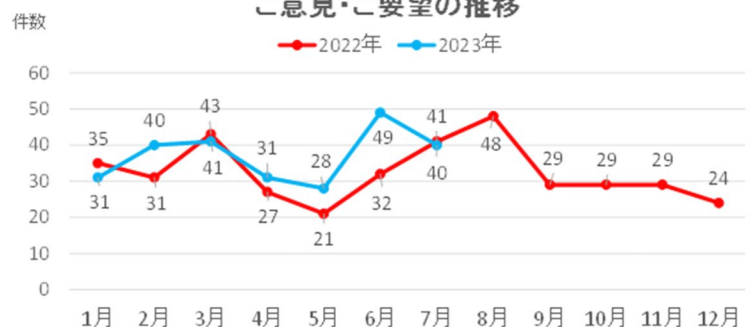
今後もお気付きの点やご要望をお聞かせくださいますようお願い申し上げます。

ご意見・ご要望	回答・改善等
有料でいいので、Wi-Fi スポットがほしいです。	ご意見ありがとうございます。 現在、患者さん向けの Wi-Fi 設置の工事を進めております。本年度中にご利用いただける予定ですので、今しばらくお待ちください。 (回答部署：管理課)
・マイナンバーカード、毎回必要かどうか知りたい。保険証の時は月に1度でした。それと、マイナンバーでも限度額が適用されますか。 ・インフォメーションにてマイナンバーの取り扱い掲示が必要ではないですか。	マイナンバーカードは保険証と同じように、月 1 回確認させていただく必要があります。また、限度額認定証につきましては、オンライン資格確認の機械にて設定していただくことで適用されます。(現行通り、会計受付でも限度額の登録は可能でございます。) 掲示につきましては、中央棟 1 階インフォメーションに『マイナ受付』の掲示を予定しております。貴重なご意見ありがとうございます。 (回答部署：医事外来課)
診療ガイドラインが掲載されていません。 附属の他院（本院や江東豊洲病院）は載っている。	当院ホームページ上で「診療科ガイド」の場所が分かりづらく申し訳ございませんでした。 当院の「診療科ガイド」は「地域医療連携室案内」の場所に掲載しておりますが、ご意見いただきましたように、本学他附属病院のホームページと同じ「医療関係の皆様へ」の場所にも追加をしました。 以上、貴重なご意見をいただきありがとうございました。 (回答部署：総合サポートセンター)

2023年7月
ご意見箱に投函された
ご意見・ご要望の総計40件



2022年・2023年
ご意見・ご要望の推移



【告知】秋期市民公開講座について

毎年ご好評いただいております「市民公開講座」について、秋期の開催が決定致しました。春期公開講座では「前立腺がん」と「食」をテーマにお届けしましたが、今回は「無痛分娩」と「AIによる内視鏡検査」をピックアップした講演を予定しております。

普段はなかなか聞くことのできない分娩方法についてや、最新の検査技術についての講座を開催する予定です。詳細が決まりましたら、ホームページや次回の病院だよりでお知らせいたしますので、ぜひご確認ください。

みなさまのご参加を心よりお待ちしております。

【開催日時】10月28日(土) 13:30~

【講演内容】第一部「無痛分娩について」

産婦人科 市塚清健 教授

第二部「AIによる内視鏡検査の進歩について」

消化器内科 三澤将史 講師

※演題名は変更する場合があります。

【開催方法】ハイブリッド(対面とオンラインでの開催)

【参加費用】無料



編集後記

読書の秋、スポーツの秋、食欲の秋。皆さんはどの秋を堪能されていますか。日中、ようやく過ごしやすくなってきて、暑さのために落ちていた食欲も戻ってきました。

さて、皆さんは秋の果物と言えば何を思い浮かべるでしょうか。私が思い浮かぶのは、柿、葡萄、林檎、梨などでしょうか。中でも梨は子供のころから大好きで、よく田舎の祖母が送ってくれたのを思い出します。

梨は稲作と同時期に大陸から持ち込まれたようで、最も古い栽培果実の一つとも言われているそうです。梨の多くは追熟せず、購入後は冷蔵庫の野菜室等へ、冷気が直接触れないよう個々に新聞紙等で包むか、ジップ袋へ入れて『ヘタ』を下にして保存すると、美味しさが長持ちするとのこと。うちでは普段は実家からもらうばかりなので、今年は家族で初の果物狩りにでも行ってみたいと思っています。皆さんも秋ならではの美味しい食を求め、各地へ足を運んでみてはいかがでしょうか。

(放射線技術部 國井 優)

北部病院だより 第183号
2023年9月1日発行

発行責任者 門倉 光隆(昭和大学横浜市北部病院長)

編集責任者 緒方 浩顕(広報委員会 委員長)

発行 昭和大学横浜市北部病院

〒224-8503 横浜市都筑区茅ヶ崎中央 35-1

電話 045-949-7000(代表)

URL: <https://www.showa-u.ac.jp/SUHY/>

北部病院ホームページにて最新・過去の『病院だより』がご覧いただけます。